

3. 調査結果報告

3-7. トランスジェンダーに対するシスジェンダーの意識

シスジェンダーの意識：3つの質問項目

シスジェンダーのトランスジェンダーに対する意識や偏見の実態を調べるため、以下の3つの質問を実施

① 「職場での取り組み」について

Q.これからの会社・組織・職場は、「LGBT等性的マイノリティの人たち」に対して
何等かの支援をしたり、制度を整えたりすべきだと思いますか？

② 「職場にいること」について（個人的感情）

Q.あなたの職場の同僚に「トランスジェンダー」がいたら、どう思いますか？ ※

※「LGB」についても同様の質問を実施したが、「T」の結果と大きな傾向の差はなかった。

③ 職場で「自認する性別のトイレを利用すること」について

Q.あなたが利用している職場のトイレを、トランスジェンダーの人が
心の性別（性自認）に沿って利用することについて、どう思いますか？

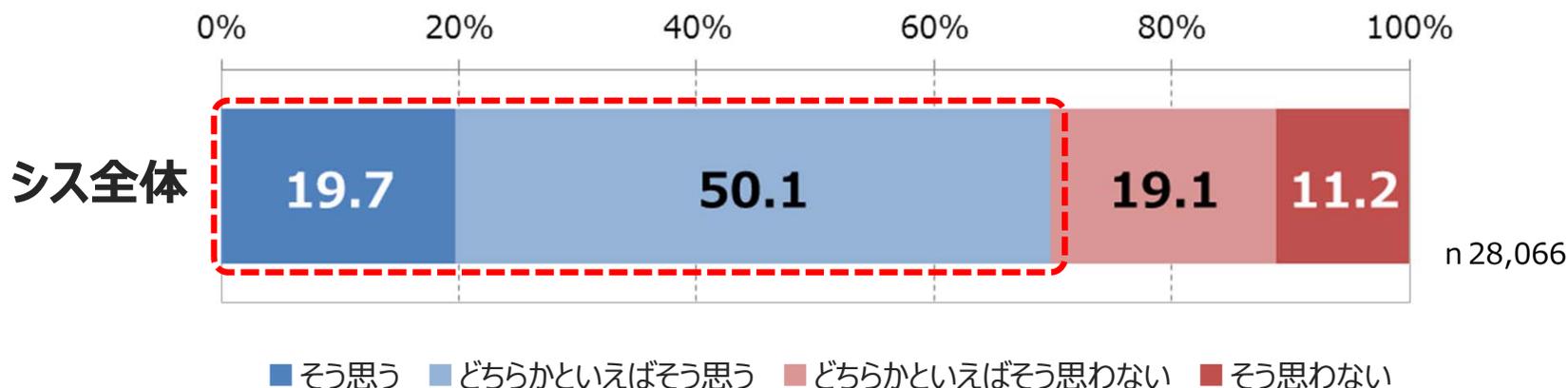
②と③については、回答者のうち海外就業者と未就業者を除いて集計を行った。

シスジェンダーの意識：①「職場での取り組み」について（シス全体）

- 性的マイノリティに対して職場での支援や取り組みについて、「すべきだと思う」と回答したシスは約2割、「どちらかといえば」も含めると約7割であった。

Q.これからの会社・組織・職場は、「LGBT等性的マイノリティの人たち」に対して何等かの支援をしたり、制度を整えたりすべきだと思いますか？

※あなたの働いている会社・組織・職場に限らず、一般的な考え方としてお知らせください。

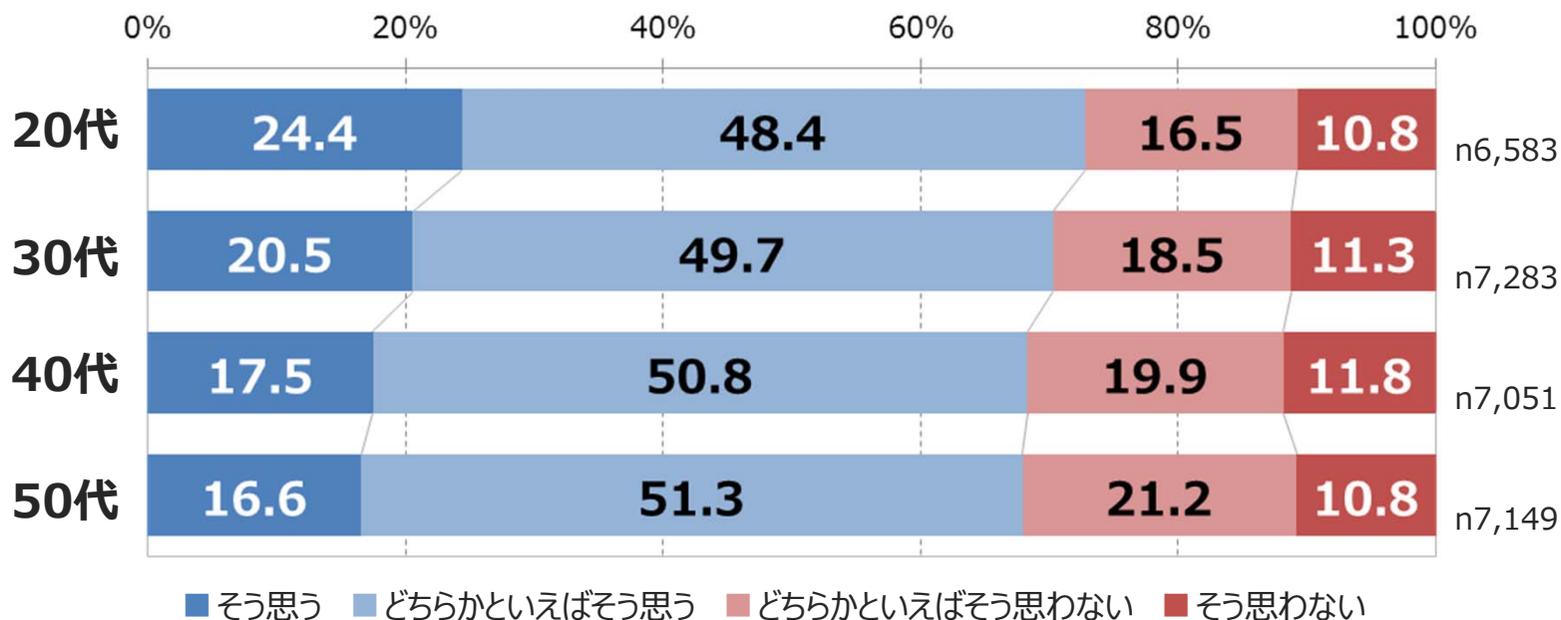
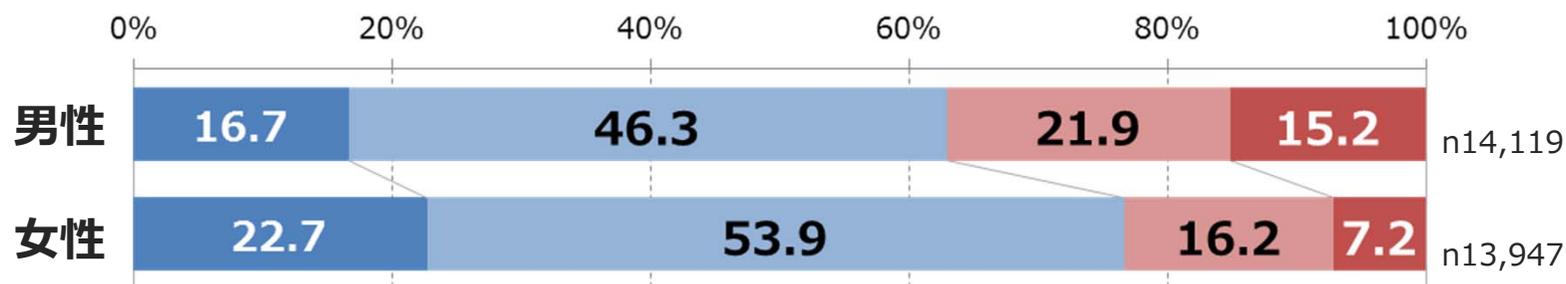


シスジェンダーの意識：①「職場での取り組み」について（シス男女・年代別）

➤ 「すべきだと思う」と回答した割合は、男性よりも女性の方が高く、年代が若いほど高い傾向がみられた。

Q.これからの会社・組織・職場は、「LGBT等性的マイノリティの人たち」に対して何等かの支援をしたり、制度を整えたりすべきだと思いますか？

※あなたの働いている会社・組織・職場に限らず、一般的な考え方としてお知らせください。



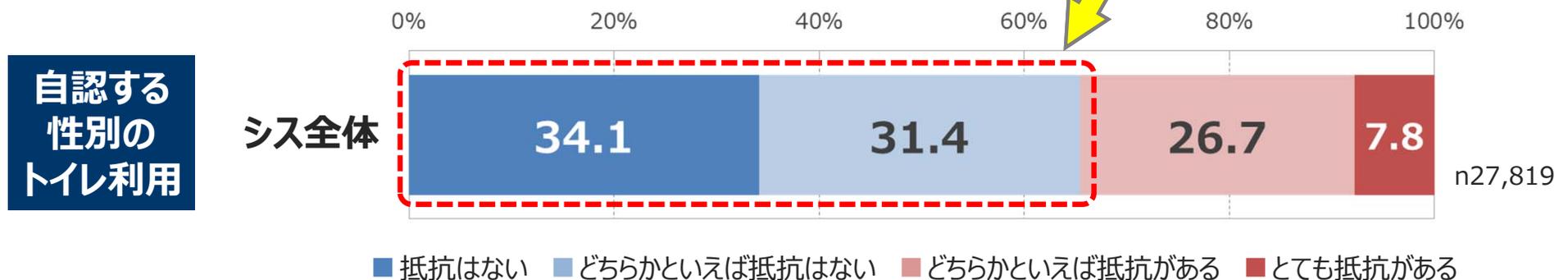
シスジェンダーの意識：②「職場にいること」と③「トイレ利用」（シス全体）

- 「職場にいること」に対しては、8割近くが「嫌ではない」と回答したのに対し、「自認する性別のトイレを利用すること」に対して「抵抗はない」と回答した人は6割以上となり、10ポイント以上低い。

Q.あなたの職場の同僚に「トランスジェンダー」がいたら、どう思いますか？



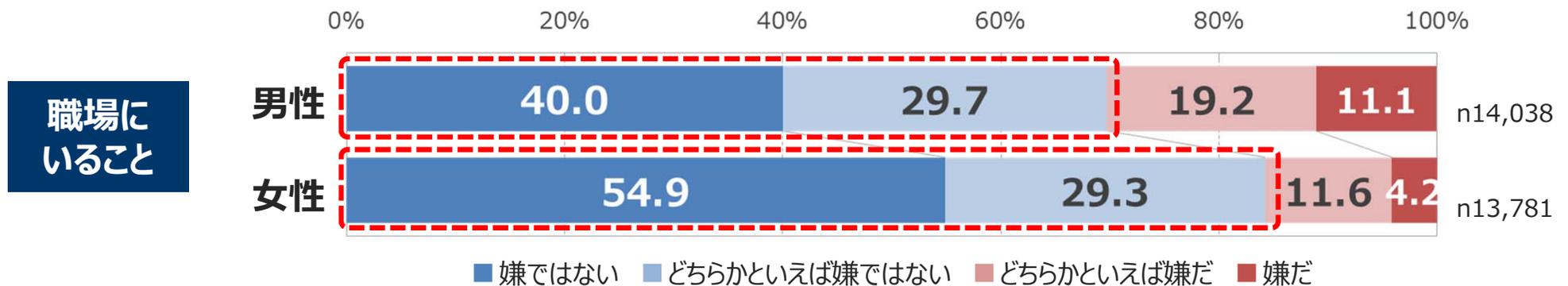
Q.あなたが利用している職場のトイレを、トランスジェンダーの人が心の性別（性自認）に沿って利用することについて、どう思いますか？



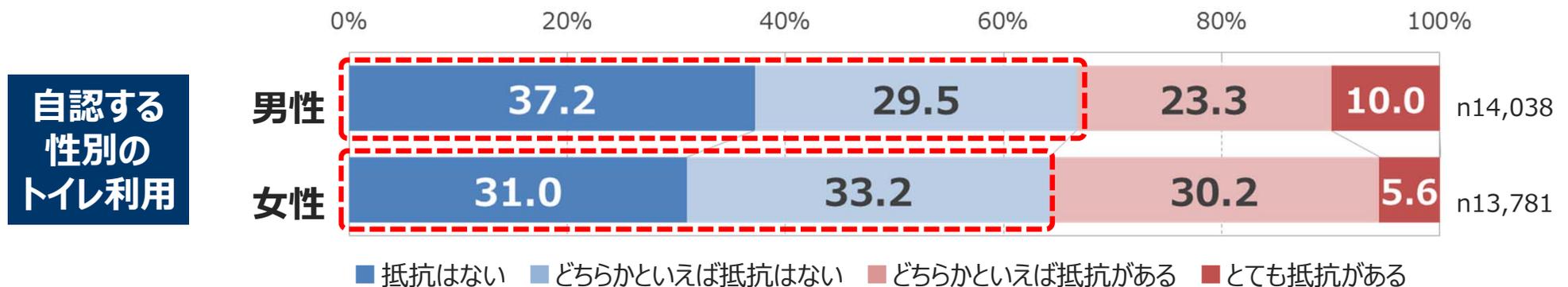
シスジェンダーの意識：②「職場にいること」と③「トイレ利用」（シス男女）

- 男性は、「職場にいること」に対して「嫌ではない」と回答した人も、「自認する性別のトイレを利用すること」に対して「抵抗はない」と回答した人も約7割であった。
- 女性は、「職場にいること」に対して「嫌ではない」と回答した人は約8割であったが、「自認する性別のトイレを利用すること」に対して「抵抗はない」と回答した人は約6割であった。

Q.あなたの職場の同僚に「トランスジェンダー」がいたら、どう思いますか？



Q.あなたが利用している職場のトイレを、トランスジェンダーの人が心の性別（性自認）に沿って利用することについて、どう思いますか？



シスジェンダーの意識：トランスジェンダーに対する「会社支援×個人感情」

トランスジェンダーに対する「理解度・寛容度」による回答傾向をみるため、「会社の支援に対する賛同度」と「トランスジェンダーに対する個人感情」の組み合わせにより、シスジェンダーを4種類に分類した。

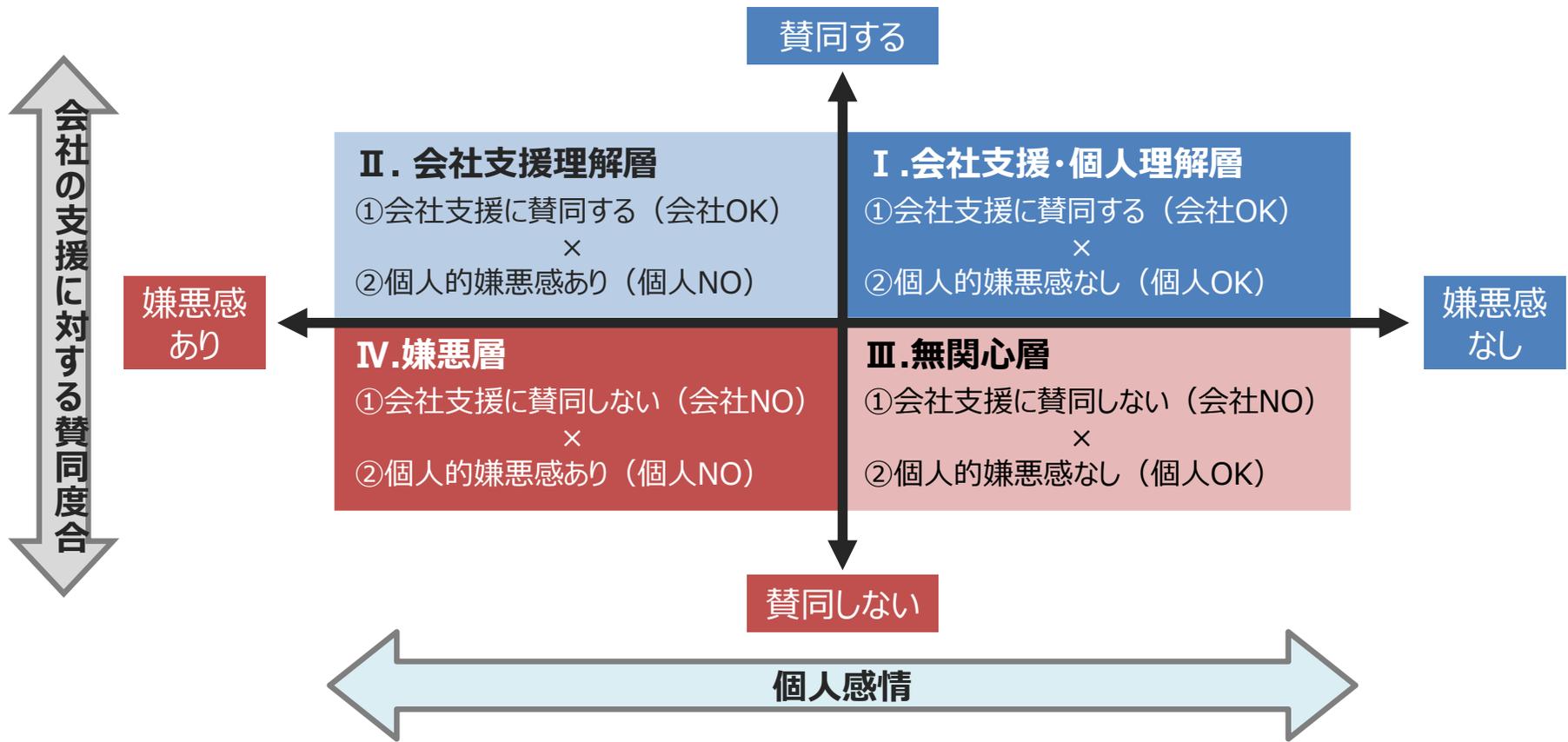
①会社が性的マイノリティに対して支援することに対する賛同度合



②トランスジェンダーが職場にいることに対する個人感情

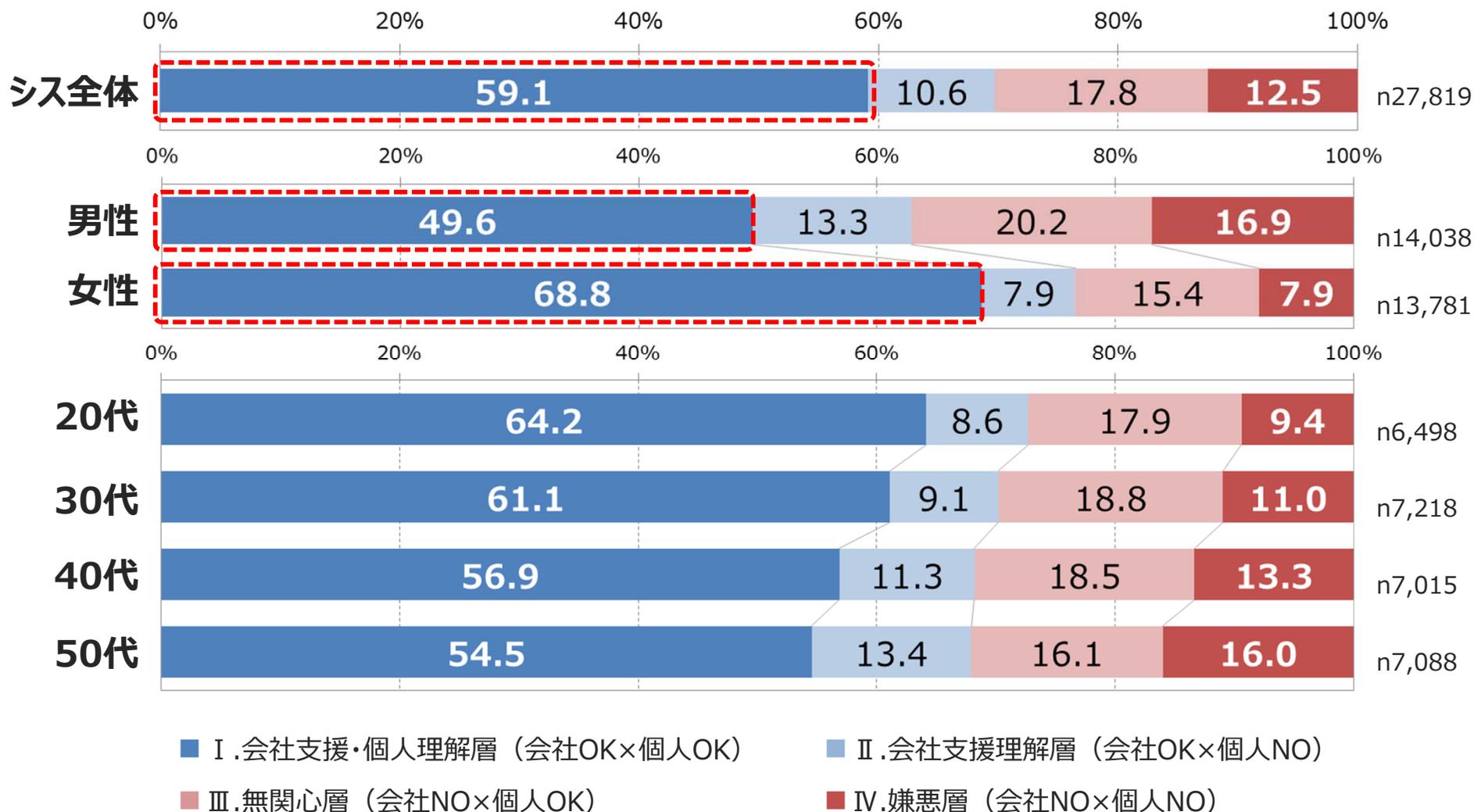
Q.これからの会社・組織・職場は、「LGBTの人たち」に対して何等かの支援をしたり、制度を整えたりするべきだと思いますか？

Q.あなたの職場の同僚に「トランスジェンダー」がいたら、どう思いますか？



シスジェンダーの意識：トランスジェンダーに対する「会社支援×個人感情」(男女/年代)

- I.会社支援・個人理解層は全体の約6割で、男性の約5割に対し女性は約7割。
- 年代が若いほど、I.理解層の割合が高く、IV.嫌悪層の割合は低くなる。



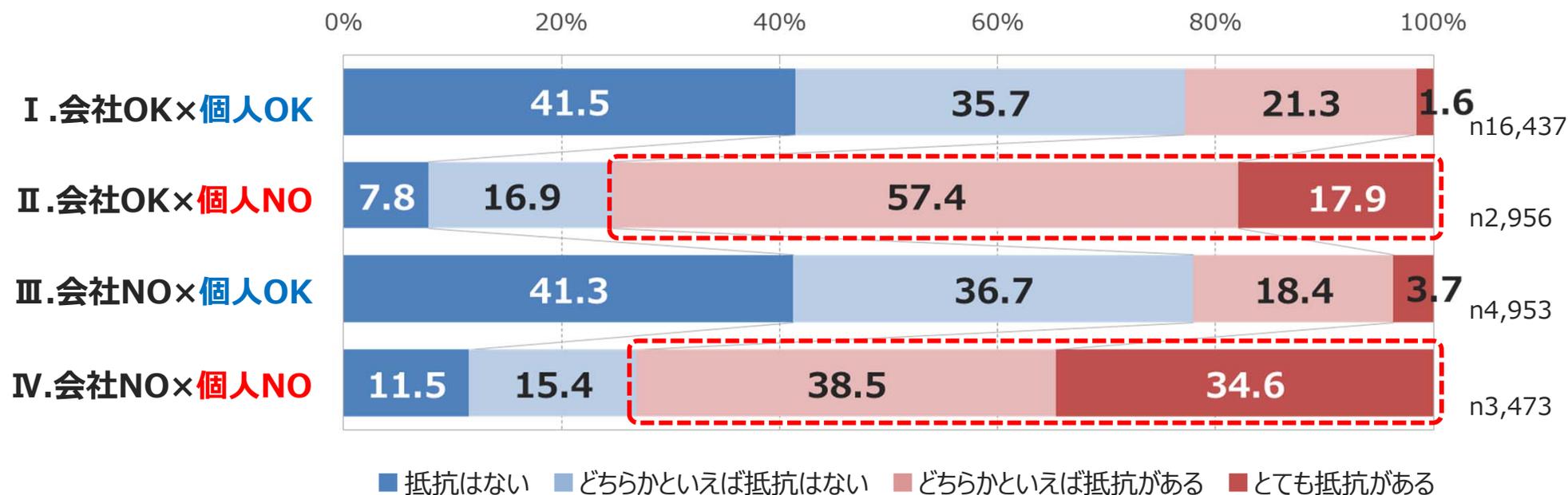
シスジェンダーの意識：③「トイレ利用」について（会社支援×個人感情）

- 「自認する性別のトイレ利用」の抵抗の有無については、会社支援への賛同度合いよりも、トランスジェンダーへの個人的感情（職場にいることに対する抵抗感）の方が強く影響している。

Q.あなたが利用している職場のトイレを、トランスジェンダーの人が心の性別（性自認）に沿って利用することについて、どう思いますか？

「会社支援への賛同度」
×「トランスへの個人感情」
による抵抗度の違い

I.会社支援・個人理解層（会社OK×個人OK） II.会社支援理解層（会社OK×個人NO）
III.無関心層（会社NO×個人OK） IV.嫌悪層（会社NO×個人NO）

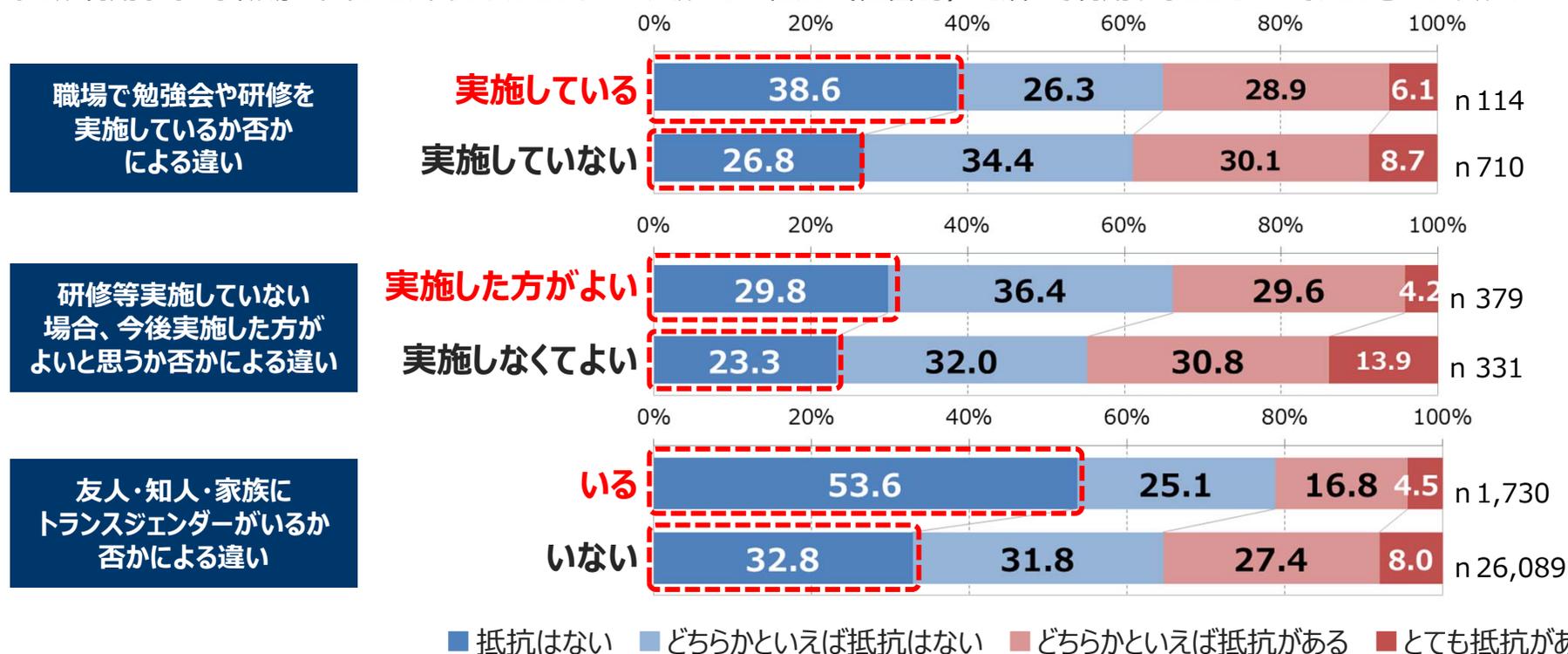


- ✓ 「抵抗がある」と回答した人の理由として、「なんとなく」、「理解できない」、「身近にいないのでわからない」といった「トランスジェンダーについて知らない、知識がない」ことに起因する声が多かった。

シスジェンダーの意識：③「トイレ利用」について（研修の実施や身近な存在の有無）

- トランスジェンダーが「自認する性別のトイレを利用すること」に対して「抵抗はない」と回答した人は、所属する会社等での「LGBT等性的マイノリティに対するダイバーシティへの取り組み※」について、「勉強会や研修」を“実施している”と回答した人では約4割、“実施していない”と回答した人では約3割であり、10ポイント以上の差があった。
※p77【LGBT等性的マイノリティに対する「職場での取り組み」への意識】参照
- 勉強会等を実施していない場合、「抵抗はない」の割合は、“今後も実施しなくてよい”より“今後は実施した方がよい”と回答した人の方が6.5ポイント高く、「どちらかといえば抵抗はない」と合わせると10.9ポイント高かった。
- トランスジェンダーが身近にいる人の場合は、約5割が「抵抗はない」と回答したのに対し、いない人の場合は約3割であり、その差は20ポイントであった。

Q.あなたが利用している職場のトイレを、トランスジェンダーの人が心の性別（性自認）に沿って利用することについて、どう思いますか？



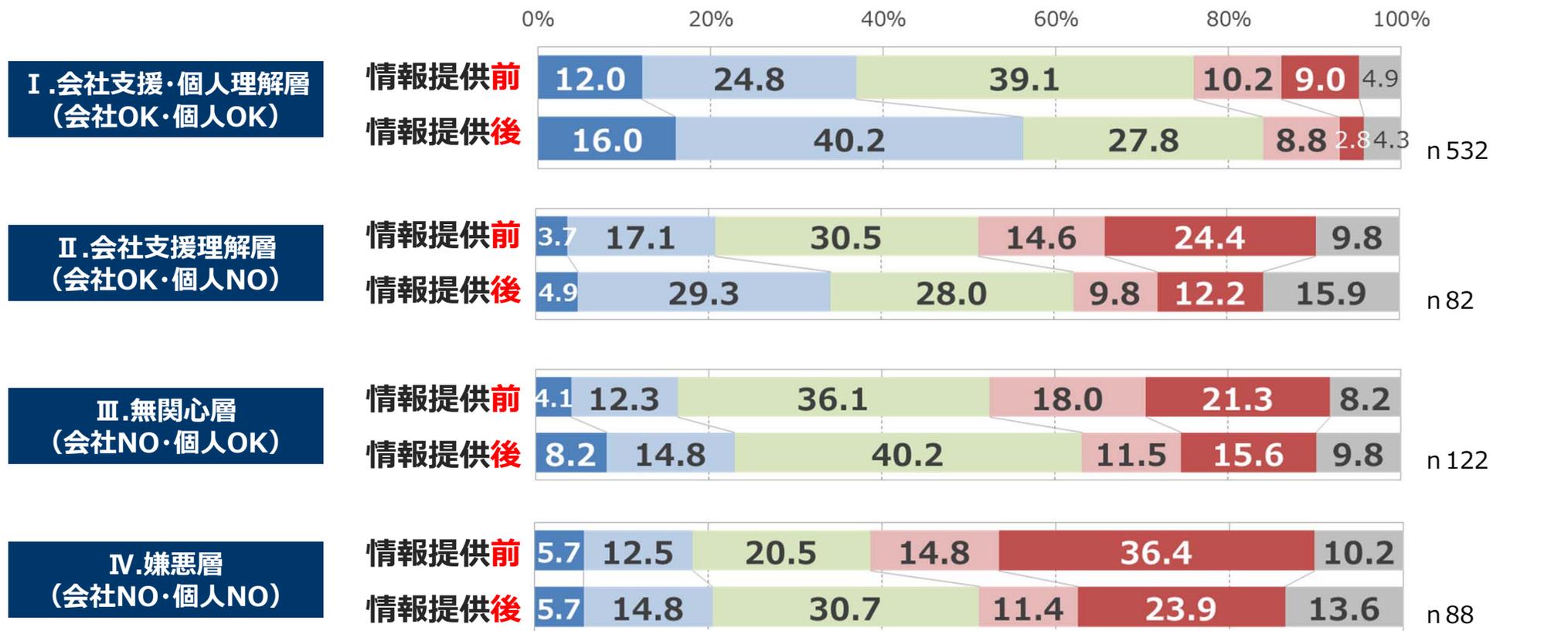
シスジェンダーの意識：情報提供による意識の変化（会社支援×個人感情）

情報の有無による意識の違いを見るために、「男女共用トイレの必要性」に関する同じ質問を2度行い、2度目の質問の際に右記情報提供を行った。

トランスジェンダーの中には、男女に分かれたトイレが利用しにくい人がいます。そのことに対する配慮として、男性用/女性用トイレに加え、多機能トイレ以外に、性別を問わずに利用できる「男女共用トイレ」を設置する考え方があります。

➤ 「男女共用トイレの必要性」において情報提供前後で回答傾向をみると、情報提供後は、どの層においても「不要」と回答する人は減少した。IV嫌悪層においてもマイナス15.9ポイントと大きな減少がみられた。

Q.多機能トイレ以外に、性別を問わずに利用できる「男女共用トイレ」はオフィスに必要だと思いますか？（あなたの職場に限らず、一般的な考え方として）



■ 必要だと思う ■ どちらかといえば必要だと思う ■ どちらともいえない ■ どちらかといえば不要だと思う ■ 不要だと思う ■ よくわからない・理解できない